



B5版、224頁

# 指導資料

授業に役立つ参考資料が豊富!

- ▶ 授業で補充できるように、教科書に出現している語やイディオムの運用例文。
- ▶ 語法や構文の詳しい解説や、例文も豊富。

## 指導目標 文化/社会事情

各 UNIT の冒頭ページでは、指導ポイントや目的をわかりやすく説明しています。

また英文背景として授業で役立つ文化事情、例えば音楽、地理、大学、美術、歴史、国際事情や映画作品の解説を紹介しています。

## 日本語訳

リーディング部分にはすべて全訳例がっています。

見やすいように該当ページの右に配置しました。

## 解答も万全

まとまりごとに用意されている本文の理解度アップに有効な Questions には、具体的な解答例を付けています。

## 指導のポイント

本文を読み解く上での重要ポイントや、誤解を招きやすい注意点には、詳しく解説をしています。

**UNIT 10 I Am Every Woman**  
(すべての女性を代表して)

Unit 10は、1953年、主人公のキャサリン・ワトソンがカリフォルニアを去り、ニューイングランドのウェルズリー校に美術史の教師として赴任するところから始まる。彼女はかねてから名門ウェルズリー校で教える仕事に大きな夢を抱いていた。才能のある若い女性たちを自立した人間に育てたいと考えていたのだ。しかし、間もなく彼女の夢は裏切られる。この女子大では、女性をただ「良い主婦」にすることを主眼に教育がなされていたのだ。キャサリンはその封建制と闘おうとする。そんな彼女に反感を抱く職員や学生も少なくない。学内新聞の編集者、ベティもその一人だった。彼女を通じて、キャサリンが古い家柄の出ではないという噂が広がる。

ある秋の日、ウェルズリー校では始業式が行われる。礼拝堂の鐘が鳴り響き、コーラスが促される。伝統に慣れ、カール学長が「あなたは何を求めるのか?」と問いかけ、学生代表のジョンが「おが生涯を協議に捧げます」と答える。このようにして大学の新学期は幕を開けた。

**◆ 指導目標 (Teaching Targets)**

- SVCの構文で、Cが that 節や現在分詞の時でも文の構造を把握できるようにする。
- [S + train / encourage + 目的語 + to + 不定詞] の意味を理解し、使えるようにする。また、不定詞が否定形 (not to + 動詞の原形) になった時の意味にも注意する。
- look forward to / be welcome / come from などの表現が、物語の中でどのように用いられているかに気づかせ、自分でも使うことができるようにする。

**◆ 文化/社会事情 (Cultural / Social Circumstances)**

物語の導入部となるこの部分には、米国の1950年代の価値観や伝統が色濃く現れている。このUnitで紹介されている伝統的な始業式を含め、生徒たちには馴染みにくいものかもしれない。しかし、この後、60年代のその波が波及したとも言える。生徒たちと無縁ではないこと。

**訳例**

**Part 1**

1953年、カリフォルニアを去り、ニューイングランドの名門女子大、ウェルズリー校へと赴いた美術史の教師キャサリン・ワトソンは、米国の最も優秀な若い女性たちに教えるのを楽しみにしていた。しかし、間もなく彼女は、ウェルズリー校は学生たちが職業を持つように教育するのではなく、有力者の妻になるよう訓練しているのだ、ということに気づく。キャサリンは学生たちに目を向くよう促し、彼女の教え方はその保守的の大学では問題になる。

**Questions 解答例**

1. She was looking forward to teaching America's brightest young women.
2. She discovered that Wellesley was training them to be housewives for important men.
3. She is from California.
4. No, I would not. Because it is too conservative.

**指導のポイント**

①-4 Leaving California for the prestigious New England women's college, Wellesley, in 1953, liberal art history teacher Katherine Watson looks forward to teaching America's brightest young women.

- leave+for...: 「～を去って～へ行く」
- leave+「～を去る」や leave for... 「～へと出発する」などもよく使われる。その両方が一緒になった形なので、生徒には訳し難いかもしれない。また、厳密にはこれだけでカリフォルニア出身とは言えないので、Question 3 について迷う生徒がいるかもしれないことを考慮すべきであろう。
- prestigious: (形) 権威のある、世評の高い。形容する際、ステータスの位置に注意せよ。[prestigious] (名) は prestige 「権威、威風」だが、これを形容詞的に用いることもある。権威は強める意味で用いられるが、権威に用いられることもある。[prestigious] (名) は prestige 「権威、威風」だが、これを形容詞的に用いることもある。権威は強める意味で用いられるが、権威に用いられることもある。
- look forward to+ing: 「～を楽しみにする」to の後は名詞か動名詞を置く。to の後に動詞の原形を置く

⑤-7 She encourages her students to open their minds, and her teaching methods cause problems with the conservative school.

- that 以下条件の長い目的語であることに注意せよ。
- prepare for...: 「～の用意をさせる」
- prepare for+「～の用意をさせる」
- career: 職業または一生続くような職業。「仕事一般をさす work」。「収入を得る具体的な仕事」の job など。区別が必要。[スティーブ・マンナー-英和辞典 第三版 参照]
- train+to be...: 「～を～にするよう訓練する」be の部分は一般動詞でも可。e.g. I trained my dog to carry a newspaper. 私は自分の犬を新聞を持って帰るよう訓練した。
- important: ここでは「有力な、(社会的に) 地位の高い」といった意味。A person of importance 「地位の高い人、有力者」と、of+importance でも用いられる。
- (7-9) She encourages her students to open their minds, and her teaching methods cause problems with the conservative school.

教科書 p. 71

Mona Lisa Smile モナリザスマイル

**1. 目標 (Objective)**

物語の一場面について、感じたことを言い合う練習をする。まず、「～をどう思う?」という問いかけで始める。この表現は、会話のきっかけ作りとしても役に立つだろう。それに対し、簡単な形容詞を用いて答へ、さらに、相手の意見も聞くことによって、インテラクションが可能になる。

**2. 手順 (Procedure)**

クラスワーク

1. 中の単語の意味を確認しながら、声に出して皆で読む練習をする。

ペアワーク

ペアを作り、自分の意見に合うものを選んで、2人でテキストの会話を練習する。選択肢として、funny, strange, impressive, traditional などを加えることもできる。生徒が知りたい用語を挙げてきて、板書して全員で共有できるように。時間があれば、the ceremony at Wellesley College の意味も、その場で書き換えて自由に会話をやらせ、前でも発表させてみよう。例について話し合っているのか、それについてどんな意見を持っているのか、他の生徒によって興味深い聞き返しの練習にもなる。

**3. 評価 (Evaluation)**

まずは、自分の感じたことを表現でき、相手の意見も尋ねることができていたかを評価したい。さらに、生徒の力に合わせ、反対意見を言うとき、相手への配慮ができていたかにも注目したい。

**指導の工夫と留意点 (Further Ideas & Notices)**

ここでは、第一段階として、「賛否」で応答する形を載せているが、特に相手の意見に反対する場合は、英語でもあまり積極的に言うことは少ない。また、どうして反対なのか、相手にも理解できるように説明することが大切である。指導に際して、相手の感情に配慮する必要性を見逃すは避けたい。以下のような簡単な例を示して説明するのもよいだろう。

A: What do you think of the ceremony at Wellesley College?  
B: I think it very old-fashioned. How about you?  
A: Well, I partly disagree with you. I think it rather traditional, but not old-fashioned. I was actually quite impressed by that.

教科書 p. 70

**10 I Am Every Woman**

**Comprehension**

1. F 2. F 3. T
2. ① housewives ② expectations

**Exercises**

1. 1. ① completed 2. ③ changed 3. ② seek
2. 1. She (encouraged) me (to) study art history at UCLA.
2. My (dream) is (to) work on a big farm in Canada.
3. Things turned (from) bad (to) worse.

**[Comprehension リスニングクリプト]**

1. Before she arrived at Wellesley, Katherine hadn't wanted to teach the students there very much.
2. Katherine was proud of having a good family background.
3. The ceremony on the first day of the semester was held in a formal and traditional manner.

**Useful Expressions**

① Katherine looks forward to teaching there. (I.3, p.66)

【解説】 forward は名詞 (引) または動名詞が来ることに注意する。動詞の形を用いてしまう語句が多く見られる。また、この表現は、進行形でもよく用いられる。例えば、近事がすて欲しいことを伝える表現として、e.g. I am looking forward to hearing from you soon. 早いお返事をお待ちしています。

② Then you are welcome. (I.16, p.68)

【解説】 Then が、相手の申し出の条件を満ちたことを含意している。本文中では、全女性を代表するジョンが学問に対する真摯な態度を表明したことで、この脈に入る条件が満たされたことを意味している。「あなたを歓迎します」は、通称の場では「誇い」とともに用いられることも多い。また、強めの意味で、You are more than welcome. 「大歓迎します」も用いられる。さらに、Thank you. に対する応答としても用いられることに慣れてみよう。

③ I come [am] from Hokkaido. (I.6, p.67)

【解説】 本文中では、she did not come from a good family. として、キャサリンが古い家柄の出ではないという意味で用いられている。この例のように、出身地を表すに使うことも多く、この場合、一般には現在形を用いる。

**補充問題**

1. 下線部の意味に近いものを選びなさい。

1. The academic year has commenced. ( )
2. John's fault was overlooked because he was such a kind man. ( )

① began ② disregarded

2. ( ) に適切な語を挿入しなさい。

1. その先生は学生たちがきちんとした職業につくための準備をさせた。The teacher ( ) the students ( ) careers.
2. 彼は何も、誇りの気配にありません。The post office is ( ) the left ( ) of the street.

[ANS] 1. ① ② 2. ① prepared for ② on, side

## 指導手順

生徒のレベルにあわせた授業をスムーズに行うことができるように、クラスワーク、ペアワークなど豊富な活動手順を用意しました。

## 該当箇所がすぐわかる

指導の該当箇所がすぐわかるように、指導書には教科書の該当ページを縮小印刷して掲載しています。

## 指導の工夫と留意点

ACTION を行う際の工夫を述べています。追加情報を掲載しているので適宜活用することができます。

## Useful Expressions

教科書で取り上げた有用な重要表現を例文とともに、解説しています。本文の該当ページと行番号を記載していますので、本文との比較が簡単に行えます。

## 補充問題

本文に出現している重要語句、重要表現の定着のため、空所補充問題や英文和訳問題などを用意しました。教科書には掲載されていないので、宿題やテストに活用できます。